

2011年12月1日

クアラルンプールセミナーレポート

OLICD Center 古藤

2011年3月11日に発生した東日本大震災とそれに伴う原発事故により、当初予定していた国内セミナーは急遽全てキャンセルし、海外現地セミナーを開催することにしました。その皮切りとして9月に開催したバンコクセミナーに引き続き、2回目のセミナーをマレーシアのクアラルンプールで開催しました。

- 名称： OLIS-MII-LIAM 2011  
アジア生命保険振興センター (OLIS)、Malaysia Insurance Institute (MII) 及び Life Insurance Association of Malaysia (LIAM) の3者による共催
- テーマ：震災対応で日本の生命保険業界が採った特別措置
- 開催日：2011年11月17日(木)
- 場所：クアラルンプールコンベンションセンター
- 参加者数：86名  
生保17社のほか、中央銀行、保険仲買会社、MIIの留学生など
- プログラム：

	テーマ	講師	タイトル
午前	東日本大震災－保険会社の対応	古藤 卓氏	OLICD Center 事務局次長
午後	日本の金融監督当局のリスク管理の取組み－東日本大震災をふまえて	植村 信保氏	金融庁監督局 課長補佐 保険セクター分析担当

- ◆ LIAMの副理事長 Vincent Kwo氏からOLISセミナーの開催を歓迎する開会挨拶がありました。



- ◆ 続いて OLICD Center 岡本理事長から、MII と LIAM への謝辞並びに財団の歴史やセミナーの意義を紹介する挨拶がありました。



- ◆ 午前の部の講義は「東日本大震災 - 保険会社の対応」で、講師は OLICD Center の古藤。冒頭に津波に襲われる街の写真などを連続して投影し、改めて震災の恐ろしさを紹介したうえで、保険会社がどのような顧客対応をしたのか具体的に説明。さらに実例として、当財団の支援企業であるジブラルタ生命の対応を説明しました。後半では、保険会社が保険金を支払うことに全力を傾け、顧客の安否確認を徹底的に行った背景には、2006年に発覚した不払問題があることを解説しました。



受講者からは、「もし本社が地震で機能不全になったらどうなるのか？」という質問があり、これには「各社とも事業継続計画(BCP)を策定し、緊急時の本社機能の代替サイトを設けているので対応できる」と回答しました。

- ◆ 昼休みをはさんで午後は金融庁の植村さんから「日本の金融監督当局のリスク管理の取組みー東日本大震災をふまえて」と題する講義がありました。前半で東日本大震災による日本の保険業界への影響について話したあと、ソルベンシー規制の現状と最近の取組みを紹介しました。さらに、ご専門とされる保険会社のエンタープライズ・リスク・マネジメント(ERM)の説明がありました。

講義終了後、震災が保険会社の経営に及ぼした影響や、ERM、ソルベンシーに関する事項など、活発な質疑応答がありました。



急遽開催したセミナーで準備期間が短かったにもかかわらず、マレーシアの多くの生保関係者からの参加を得て成功裡に終わったことを、今回多大なご協力をいただいた MII と LIAM の関係者各位に改めて感謝申し上げます。

